

事務事業評価シート 平成 29 年度事後評価・決算

平成 31 年 2 月 21 日時点

事務事業名		コード	37300 小学校教諭補助員配置事業	予算科目	会計	款	項	目	担当班	学務班
基本施策		11	学校教育の充実	根拠法令	旭市小学校及び中学校教諭補助員取扱要綱	10	2	2	事業種別 ☒ 主な事業 ☐ 国土強靱化地域計画 ☒ 新市建設計画 ☐ 定住自立圏構想 ☐ 主要事業	
施策の展開		21	教育支援体制の充実	戦略事業	112 小・中学校教諭補助員配置事業					
施策の展開				戦略事業						

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 13 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	市内小学校に教諭補助員を配置し、担任の指導を補助しながら、児童への学力保障を十分に行うことを目標とする。また、発達障害や肢体不自由で学習支援が必要な児童に寄り添い、個別指導の充実とともに基礎基本の徹底を図っていく。また、5、6年生を対象に英語教諭補助員を配置し、外国語(英語中心)活動の充実と国際理解教育の推進を図る。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
保護者や地域住民から、教育の充実のために教職員数を増やしてほしいという要望が高まってきたため	学習支援が必要な児童は年々増加している。
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
教諭補助員の数は年々少しずつ増えているが、それ以上に、発達障害等で学習支援が必要な児童の増加率が高いため、併せて学級全体が落ち着いて学習できる環境を保障するために引き続き教諭補助員の数を増やしてほしいという要望が高まっている。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(29年度の決算)		単位:千円
1. 共済費	1,704	社会保険料
2. 賞金	19,785	臨時職員賞金
② 特定財源の内訳(29年度の決算)		単位:千円
1. 国庫支出金	0	
2. 都道府県支出金	0	
3. 地方債	0	
4. その他	0	

事業費	費目内訳	単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(予算)
事業費	1. 共済費	千円	278	348	1,168	1,704	3,522
	2. 賞金	千円	19,068	20,144	20,189	19,785	21,534
		千円					
		千円					
		千円					
財源	事業費計(A)	千円	19,346	20,492	21,357	21,489	25,056
	1. 国庫支出金	千円					
	2. 都道府県支出金	千円					
	3. 地方債	千円					
	4. その他	千円					
	5. 一般財源	千円	19,346	20,492	21,357	21,489	25,056

前年度増減理由	教諭補助員の社会保険加入による、社会保険料の増加。
---------	---------------------------

従事職員数	常時	1 人	最大	人	×	日	=	延べ	0 人
-------	----	-----	----	---	---	---	---	----	-----

(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	29年度実績(29年度に行った主な活動) ・辞令交付式・勤務説明・出勤簿集計 ・登録受付・採用選考(面接、書類審査)・授業参観		ア 配置人数	人	19	20	20	20	20
			イ						

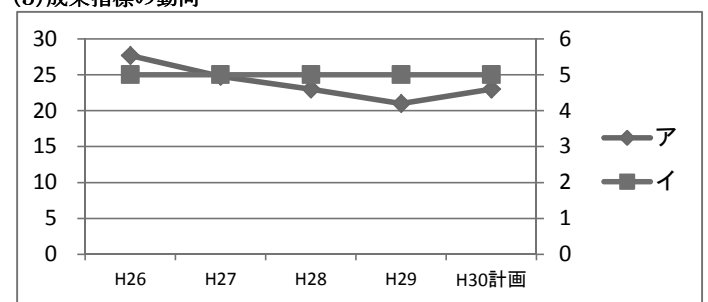
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	④ 成果指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	対象 市内小学生、保護者 意図 学習支援が必要な児童が必要な支援を得ることができる 対象意図		ア 配置人員一人当たりの学習支援が必要な児童数(英語教諭補助員3名を除く・26年度より通常学級の要支援の児童を含む)	人	28	25	23	21	23
			イ 英語教諭補助員一人当たり小学校数	校	5	5	5	5	5

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		成果向上余地		
施策貢献度	大きい	①		
	普通			
	小さい			

② コスト削減優先度評価結果		コスト比率		
評価結果	①	(1)		
	②			
	③			
	④⑤			
	⑥			
	⑦⑧			
	⑨			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況 【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)	☐ 完了 ☐ 順調 ☒ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難										
	② 成果の状況 【コメント】 (低下の場合、その理由)	成果指標ア 成果指標イ	成果指標 のタイプ	☒ 数値減＝成果向上 ☒ 向上	☐ 横ばい ☒ 横ばい	☐ 低下 ☐ 低下	比較 成果 動向	25年度 26年度	26年度 27年度	27年度 28年度	28年度 29年度	29年度 30計画
								ア 13 △3 △2 △2 2	イ 0 0 0 0 0			
	③ 今年度取組事項 (30年度に取り組む主な事項について記載)	時期	内容				今後の方向性	☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 現状維持 ☐ 廃止・休止 ☐ 見直し ☐ その他()				
		平成30年度	支援の必要な生徒数や必要な支援の程度により、状況に応じて配置していく。				30年度	支援の必要な児童は増加傾向にあり、また、障害を持つ児童に対しては、障害種に応じた支援が必要なので、さらに教諭補助員の配置を増やしていく必要がある。また、外国語の教科化に向けた対応も必要である。				